



記念式典の模様（校長式辞）

県立鶴田高等学校が 創立60周年を迎える

10月1日（土）、青森県立鶴田高等学校（柳谷睦夫校長）で、「創立60周年記念式典」が開催されました。

県立鶴田高等学校は、昭和26年県立板柳高等学校六郷分校として誕生し、その後県立五所川原高等学校水元分校、さらに県立板柳高等学校鶴田分校と県立五所川原高等学校水元分校が統合して、昭和49年現在の県立鶴田高等学校として独立した歴史ある学校です。

式典には、在校生をはじめ来賓ほか学校関係者約400人が出席して、60年の歴史を振り返り、よき伝統を守り、同校の更なる飛躍を誓いました。

式典で柳谷校長は「これからも生徒のよりよい人生と夢の実現を目指していきたい」と式辞を述べ、協賛会長の中野町長は「歴史の重みを大切に、鶴高生の更なる飛躍を祈ります」とあいさつ。最後に3年生の三浦輝君が「活気あふれる学び舎とするため、向上心を持ち努力を重ねていきます」と力強い生徒代表のこたばを述べ、出席者全員による校歌斉唱で式典が締めくくられました。

中畑清氏が来校 生徒にエールを送る

式典終了後同会場では、元読売巨人軍・野球評論家の中畑清氏が来校して「中畑清 熱き人生を語る」と題しての記念講演が行われました。

中畑氏は講演の中で、人生の師と慕う長嶋茂雄氏とのエピソードを生徒たちに語り、大舞台に強く誰からも愛された長嶋茂雄氏が、なぜそのような偉大な選手になれたのかを生徒たちに教え、それは「失敗を引きずらない」「気持ちの切り替えが上手い」性格の持ち主であったからだと言及した。また、巨人軍打撃コーチ時代に指導した、長嶋一茂、元木大介、松井秀喜のタイプの違う3選手について語り、人間にはさまざまな個性があり、そこにこそ人間の面白みがあることを教えてくれました。

最後に中畑氏は、「みんなの前で、将来の夢を大きな声で言える人になってください、そうすれば周りの人間もあなたを応援します」と生徒たちに熱いエールを送っていました。



右／トークも「絶好調」の中畑清氏
中／野球部の生徒に中畑氏が将来の夢を聞く
左／生徒たちへエールを送る中畑氏